

教育目標・学校像	「豊かな人間性と自ら学ぶ態度を育み、地域を支える産業人を育成する」
	(1) 専門的な知識・技能の習得を目指し、学ぶ楽しさや学ぶ方法を知り、将来に役立つスキルを身につける学校
	(2) 地域交流や地域貢献を通して社会に役立つ人材を育てる学校
	(3) 自然を対象とした学習を中心に豊かな人間性をはぐくむ学校

重点目標・評価項目	ア 魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。 ○わかる授業の実践 ○学習習慣の確立 ○資格取得の向上
	イ 自己実現を図るために、校外活動への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。 ○進路指導の充実 ○部活動の活性化 ○地域連携活動の推進
	ウ 規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナーや社会性等、社会的自己指導能力を育成する。 ○欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活を確立させる ○時間厳守による学校生活の徹底 ○挨拶の励行により活気のある学校

各部等の自己評価

重点目標		具体的な手段	自己評価及び反省事項 【自己評価は4点満点】	
重点目標	魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学びに向かう力を育成する。	わかる授業の実践	2.9	・生徒の理解が深まるよう教材研究の工夫を行った。 ・ICT機器を活用し、授業展開の工夫を図った。
		学習習慣の確立	2.4	・課題の提出状況が思うように改善されなかった。 ・定期試験以外の学習習慣が確立できなかった。
		資格取得の向上	2.7	・計画的な指導を推進し、資格取得の意識向上を図ることができた。 ・今後は資格取得(合格)をさらに向上できるよう指導を図りたい。
	自己実現を図るために、校外活動への積極的な参加を奨励し、自主性や主体性を育む。	進路指導の充実	2.8	・1年次より計画的に指導を推進し、生徒の意識を向上させる必要がある。 ・進路の手引きを発行し、情報共有を図り、計画的に指導をする必要がある。
		部活動の活性化	2.8	・生徒のより良い人間形成に向け、良い活動を行うことができた。 ・今後は部活動のあり方を含め、検討を図りたい。
		地域連携活動の推進	2.7	・農業科を中心にコロナ禍においても工夫して実施することができた。 ・地域のクリーン活動が実施できていないので、実施した方がよい。
	規律を遵守させるとともに、社会生活に必要なマナーや社会性等、社会的自己指導能力を育成する。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活を確立させる	2.3	・一部の生徒による欠席や遅刻が多く、生徒の意識向上を図りたい。 ・体調不良による欠席が目立つため、健康管理の意識向上を図りたい。
		時間厳守による学校生活の徹底	2.9	・実習が多いため、次時に余裕を持って行動が出来るよう指導を図りたい。 ・教員間の連携を図り、生徒が余裕を持って行動ができるようにしたい。
		挨拶の励行により活気のある学校	3.0	・今後は元気よく大きな声で挨拶ができるよう指導を図りたい。 ・生徒のみではなく学校全体として挨拶の励行が行われるようにする。

努力目標		具体的な手段	自己評価及び反省事項 【自己評価は4点満点】		
教務部	重点目標関連	魅力ある授業の実践に向け、教務事務および情報提供等を積極的に行い、新しい学習指導要領への移行をスムーズに行えるようにする。	(1) 教育課程の適切かつ効果的な運営に努めるため、チャイムプログラムの事前設定を実施する。 (2) 新しい学習指導要領への移行に向けた各種情報提供等を実施する。	3.4	新しい学習指導要領への以降に向け各種情報提供を行うことができた。また、各学科や教科において情報共有が出来るよう努めることができた。今後はそれらの内容について、さらに充実したものになるようシステムの構築を図りたい。
		部活動の活性化や地域連携活動の推進、保護者や生徒、中学生および関係機関への情報発信を積極的に実施する。	(1) 学校Webページや一斉メール等を活用して情報提供や連絡を実施する。 (2) 学校パンフレット等を刷新し、本校の特色を広く周知する。	3.4	学校webページによる情報提供や、今年度より刷新したパンフレットによる周知のほか、中学校訪問等を行いPRを行った。今後はさらなる拡充を目指し取り組みたい。
	それ以外の事項	新しい学習指導要領に基づいた中・長期的ビジョンの検討と策定を実施する。	部会や各種委員会等を活用し、本校ならではの教育作りに向けた検討を推進する。	2.7	各部会や委員会等において検討することができたものの、「ならでは」より「例年通り」にとどまった部分が多く見られた。今後は検討の時間をさらに確保し、より充実した検討が出来るようにしたい。
	それ以外の事項	学校教育目標達成に向けた機能的な学校組織確立のために、各種企画や連絡・調整を実施する。	学校行事の見直しと適正配置に努め、本校ならではの教育作りに向けた連絡・調整を実施する。	2.7	コロナ禍にありながらも適正配置を進めることができたとともに、コロナ禍によって見直すことができた。今後は職員状況等を含めた教育資源も考慮したうえで検討を進めたい。
情報管理部	重点目標関連	一斉メール配信システムの改良と新規登録者数の増加	学科単位、クラス単位でメールを配信できるようにシステムを改良すると共に、未登録者リストを作製・配布する。5月以降に登録完了したものを新規登録者としてカウントする。	3.0	クラス単位でのメール配信を可能とすることができたが、あまり活用されていなかったため、職員へ周知し、必要な際に問題なく利用できるような体制としていきたい。
		成績処理システムの改善	学科再編に伴い教育課程が変更されたため、成績一覧表等に用いられている数式を組み直し、成績会議や調査書作成に有効な成績処理システムを構築する。	3.8	成績会議のみならず、調査書作成にも使用できる数式を組み、業務を効率化できた面が大きい。来年度からは新しい校務支援システムの利用が始まるため、使用方法などを検討していきたい。
	それ以外の事項	学校HPを充実させ、学校内外に対する情報発信の手段としての有効活用	一斉配信メールの内容を連携させ、迅速にHPに掲載する。見やすいHPを心がけ、バナーの位置等を改善する。	3.6	学校としての取り組みに関して、目立つ位置に大きくバナーを設置するなど改善することができた。HP係と、記事を更新する担当(学科HP担当など)が互いに連携できると、さらに充実すると考えられる。
	それ以外の事項	GIGAスクール構想によって配布されたタブレット端末の整備・活用	初期設定作業を滞りなく行い、有効的な管理方法・利用方法を模索する。	3.8	係の中で、迅速に設定作業を行い、利用方法・管理方法を検討することができた。授業でも利用される頻度が増えていることに加え、ICT支援員の方とも連携がとれてきている。

学習指導部	重点目標関連	授業・実習の充実	(1)授業時間の確保：始業時間・終了時間の厳守 (2)分かる授業・魅力ある授業の展開	3.0	個々に応じたきめ細やかな指導が実施出来た。生徒も職員も時間を意識して行動していた。一方、行事を実施する曜日時間が重なるため、授業時間の入れ替えなどの調整があると良かった。
		基礎学力向上のための取り組み	(1)朝学習の効果的実施に向けた、内容の改善と指導の徹底 (2)家庭学習を促すための課題の作成・提示	2.9	進路を意識した朝学の作成が出来た。教科・学年・進路が連携し、更に効果的に実施出来るようにする。家庭学習については、長期休業中には課題一覧を配布師で実施出来たが、普段の家庭学習の指導については課題が残る。
	それ以外の事項	資格取得率の向上	(1)生徒への各種資格取得の奨励と、資格の精選 (2)資格取得率向上のための指導の充実 (3)資格取得者の報告と記録	3.0	進路を考えた上で、プリントを配布したり、課外を実施したりして個別指導などを実施出来た。職員の声かけにより、積極的に受験する生徒が多かった。
		プロジェクト活動や、ボランティア・交流活動の充実	(1)ボランティア活動の紹介と参加の奨励 (2)地域交流活動の充実 (3)課題研究の授業内容及び報告書の充実 (4)各学科・団体のプロジェクト活動の充実	3.0	プロジェクト活動が認められ、表彰されたり、商品化されたりしていたところもあり、活発な活動がなされていた。地域活動の充実がなされていたが、学校内での共有（活動報告）が少ない。コロナ禍で福祉施設でのボランティアは余り出来ていないが、少しずつ活動は出来るようになってきているので、引き続き生徒の意識を高めていきたい。
生徒指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立	・遅刻が常習化している生徒への働きかけを強化し、規則正しい生活が確立するようサポートを行い、遅刻者の延べ人数の減少を図る。 ・服装・容姿など、学校で定められた規則を遵守し、高校生としての正しい在り方について生徒の理解を深めさせ、自己指導能力を高める。	2.8	生徒全体としては状況が非常に良くなってきている。今回の評価点平均が厳しめである理由としては、以前の栃農との比較をし、相対的な評価をする職員よりも、現状をもっとより良い状況にしていきたいという職員が増えたためであると考えられる。したがって、部としてはこの自己評価は前向きに捉えている。職員間の意識統一をさらに強め、次年度へつなげていきたい。
		教育相談体制の充実	・スクールカウンセラーを2名態勢にすることで、相談可能な日程を増やす。 ・心に不安を抱える生徒が少しでも安心して学校に通えるよう、従来の校内ルールの原則だけに当てはめて指導をすることなく、個々への柔軟な対応をするための調整に努める。	3.5	校内規定の見直しも含め、かなり柔軟できめ細かな対応が実現できた。教育相談を必要とする生徒は増加傾向にあり、相談内容も多様かつ深刻なものもあるため、さらなる充実が必要であると考えられる。
	それ以外の事項	いじめや問題行動、ネットトラブルの防止	・教員間の情報交換の機会や連携を密にし、いじめや問題行動等の発生防止に努める。 ・いじめや問題行動等の未然防止の観点から、休み時間等の巡回指導を実施する。加えて、新型コロナウイルス感染者や医療従事者家族への差別などが起こることのないよう、徹底した人権配慮の呼びかけを継続していく。また、ネットトラブル未然防止のための監視を強める。	3.1	いじめ防止対策推進法に沿った対応ができており、早期発見からの対応も概ね良好であった。SNSを利用した友人間トラブルの進行速度が極めて速いことに苦慮した。日頃の教員と生徒の関係、担任と保護者の関係づくりが早期発見に繋がっている。
		交通規則の厳守やマナーの醸成	違反する生徒への指導を徹底し、指導を通して規則やルールを守る生徒の育成を図る。	3.1	近隣住民からの苦情はほとんどなかったことは例年と比べると大きな変化であったと感じるもの、校外巡回中に自転車登下校中の並進やスマートフォンの利用をしている生徒を注意することは数回あった。引き続き声かけによる指導を続けていきたい。
進路指導部	重点目標関連	キャリア教育の推進	学習内容や指導法、生活・学習習慣・体験的な活動をマイプロフィールと意図的に関連づけ、相互に繋げながら実践する。	2.9	・生徒の自己理解を深め、進路指導に活かす事ができている。 ・学科や教科との関連づけに不十分な面が見られた。 ・学習習慣は学年主任が中心に行っていた。
		進学体制と就職体制の強化	進路指導部が中心となり、学科・学年・教科との連携を図る。	2.6	・面接、小論文対策を部が学年と学科を紐付けるべき。 ・情報が行き来しやすい体制があるとよい。 ・所々情報が出るのが遅い事があるため、スムーズな情報提供があると良い。 ・学年と教科の連携ができていた。
	それ以外の事項	進路先（大学等、企業）の開拓と情報の共有化	これまでの実績を基に計画的に進路を開拓するとともに、学科の関連産業を開拓し、進路選択へ進めていく。	2.9	・学科に関連していない職業選択の先生が多かった。看護医療福祉系統に付随する教科が無い。「生活と福祉」「保育」を教科科目に関連できないか。 ・前年度の担当教員からの引継を行い、年度の初めからスムーズな動き出しを目指す。 ・3学年が第1志望にしっかり合格している。
		生徒が主体的に情報を収集し、進路について相談ができるような進路指導室の環境を整える。	生徒が主体的に情報を収集し、進路について相談ができるような進路指導室の環境を整える。	2.6	・学年を中心に指導を行う事ができている。 ・進路資料、進路室の整理、集約を行って生徒が自主的に調査できる環境を作るべき。 ・3学年を中心に指導ができた。
健康指導部	重点目標関連	健康管理意識の向上	受診勧告を学期毎に通知する。また、個別に受診勧告し、受診率が向上するよう働きかける。 健康管理について、機会のあるごとに啓発する。	3.2	・個別に指導や受信を促すことができた。また、自己管理について授業等で声掛けを行うことができた。 ・養護教諭を中心に通知を作成して頂き、配布することができた。 ・今後は放送やメール等を有効活用してもよいのではないかと考える。 ・健康診断後に受診勧告は行っていたが、個別で行うことは難しかった。
		生徒の安全指導に関する的確な指導	マラソン大会の安全な実施に向けて、十分に準備し全職員の協力で実施をする。 体育時での事前指導、観察や学校医等による生徒の健康状態の把握など事前準備の徹底。	3.5	・指導を行うことはできた。今後はいかに生徒や家庭が意識を持って取り組めるかが大切になると思うので検討していきたい。 ・分担を適切に行い、一部に業務が集中しないようにした方がよいと思う。 ・全職員で適切に対応しきることができなかった。
	それ以外の事項	防災意識の向上	災害への適切な行動ができるよう、生徒の意識を高める防災指導、避難訓練を行う。 定期的に安全点検を実施する。	3.4	・おおむねできていくように感じる。今後は全職員がいかに意識することができるようになるのかを検討し行っていきたい。 ・点検表を作成し点検回数を増やしたほうがよいのではないかと。
		体力の向上	基礎体力の向上につながるよう、授業時にジョギング、補強運動を行う。 定期的に体力向上方法について説明する。	3.4	・十分できた。今後は生徒が自ら考えて意識して行えるかどうか検討し、実践していきたい。 ・授業ごとに体力向上に向けて取り組むことができた。

特別活動部	重点目標関連	学校行事において、生徒主体の積極的な参加を進める。	各種行事において、生徒各自の役割分担を事前に確認し把握させ、個人個人が主体的に動けるよう指導する。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において事前に生徒に指導していたため効率よく運営できた。 ・生徒自身が把握し「自ら」行動する場面は少なかった。 ・自分の役割を明確にすることで責任感を持ち参加している姿が見られた。 ・部長の指示のもと、できるだけ生徒主体を心掛けている。自ら動けない生徒には役割を与えるようにした。 ・栃農祭などで自主的に動く生徒が多く見られた。
			生徒会役員に学校の代表者としての自覚を持たせ、生徒会活動において自分たちの判断・意思で有意義な活動へとするために考え行動させる。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の参加が少なく来年度が心配になった。 ・予算折衝など一人一人が生徒会としての自覚が持てるような活動をしていることを見て良いと感じた。 ・しっかりと行動できている生徒はいたが、なかなか自覚の持てない生徒もいた。
	それ以外の事項	各部活動において、各種大会に積極的に参加を促し、そのための主体的な練習とその補助に努める。	日頃の活動全般において、生徒が主体的に活動できるよう職員が援助・協力する。	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方に協力いただいた。 ・与えられた仕事内容のみ活動することが多く見られた。 ・職員が丸手となって各行事を実施できていると思う。 ・生徒の活動をサポートできた。
環境整備部	重点目標関連	学習環境の改善・整備 ※教室、実習室、準備室の整理整頓	下校時に机上、ロッカーに物を置かない状態にし、机、ロッカーを整理させて下校させる。	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からは教室等の整理整頓、清掃状況について概ね高評価をいただけた、クラスや場所によってばらつきはあった。 ・クラス減・教職員減となって、掃除の分担区の割振りに苦慮したので、反省点は次年度に活かしたい。情報処理室を分担区に入れたのは良かった。 ・更衣室の運用（私物の扱い、ゴミ箱の設置、掃除の担当者など）があいまいだったので、次年度の課題としたい。
		学習環境の改善・整備 ※施設、設備器具の点検、計画的修繕	大掃除の際、窓、ロッカーの後ろ等日頃できない場所の清掃を徹底する。		
	それ以外の事項	校舎外環境の改善・整備	グラウンドや校舎周辺の環境整備を行う。 定期的に薬剤散布を実施する。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎外の環境整備は、定期的実施できた。
渉外部	重点目標関連	新会長のもと、PTA組織を円滑に運営していく。	会長と連絡を密に取り、本部役員の方を中心に多くのクラス役員の協力を頂き、進んでPTA活動に参加してもらう。	3.1	会長を中心に本部役員クラス役員の7割程度の方は協力的に活動できた。本部役員会でまとめた意見を理事会で反映するために方針や会の進め方を確認したい。
		新型コロナウイルス禍で限られたPTA活動の中ではあるが、PTAとして学校教育に協力していく。	コロナ禍で感染に十分配慮して、PTAとしてやれることを検討して活動していく。	3.4	PTAとしてやれることを話し合い協力して活動できた。また、コロナ禍にもかかわらず行為工夫した活動が出来た様に思う。
	それ以外の事項	地域連携活動を推進する。	栃農祭に協力するなどして、地域の方々と交流を図り、地域連携を推進する。	3.4	地域連携に推進する活動に多くの参加者がいた。
農場部	重点目標関連	わかる授業の実践	フィールドを活用した、体験的な授業の実践。TTやグループ学習を存分に生かした、きめ細やかな生徒の指導。農家や専門機関との繋がりを持った授業の実践。	2.4	コロナによって活動に制限があったが、後半は校外での活動や外部講師による授業を実践できた。「栃木地区農業教育連絡協議会」による活動が各科展開できた。今後は、プロジェクト学習を中心としたグループ活動にさらに力を入れていく。
		開かれた農場づくりのための関係機関との連携・交流・協働	「未来を創る高校生地域連携事業・協働事業」を核として、連携・交流・協働活動を推進し、生徒の積極性や意識向上を図る。	2.6	各科それぞれの特色を活かし、計画に沿って地域連携事業を進めることができた。すべての学科が関わった「栃農給食DAY」は所期の目的を達成し、各方面から盛況であった。海外の農業を学ぶオンライン講座も実施した。
	それ以外の事項	学習環境の改善・整備	より良い学習環境作りのため、施設設備及びその周辺等の整理・整頓・整備を実施する。また、適時に修繕や更新の要望を行う。	2.6	今年度、デジタル化推進で大きな予算が付き、温室の修繕ができた。今後も薬品や農場の産廃等を計画的に処分していく必要がある。また、生徒に何を学ばせたいかをしっかりと見定め、施設・設備等の充実を継続して検討していく。
	広報活動の活発化	HPの更新、学外へのPR活動の実施、新聞等メディアに掲載される活動を推進する。	2.7	例年以上にHPの更新を行い、新聞等への掲載も多かった。中学生への広報の面でさらに力を注いでいく必要がある。	

1 学年	重点 目標 関連	基本的な生活習慣確立のための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率98%以上を目指す指導。 ・服装容姿、挨拶、返事をしっかりとさせる指導。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣が確立されていない生徒もあり、遅刻・欠席が多くあった。 ・挨拶の指導を強化する必要がある。 ・服装の乱れも出てきたが、大きく乱れている生徒は少ない。
		自分から進んで何事にも取り組む姿勢を確立するための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する習慣を身につけさせ、欠点を取らないようにさせる指導。 ・まず考えて行動する習慣を身につけさせる指導。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで行動、学習できるように指導することが必要だ。 ・考えて行動する力がまだまだ弱い生徒が多い。 ・言われたことしかできない生徒が多く見られた。 ・中学校の延長になっている生徒が見られる。
	それ 以外 の事 項	生徒の心身のケアをおこない、生徒個人個人の能力を伸ばす指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談を密にし、関係部署・保護者・関係機関との連携を密にする。 ・情報の共有をし、学年全体で当たる体制を確立する。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の問題等を早期に発見し、関係職員や保護者などとの連携を密にすることができた。 ・学年全体で指導に当たる体制はよくできていたのではないかな。
2 学年	重点 目標 関連	自分から進んでなにごとにも取り組み、創造し、挑戦するための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・まず考えて行動する習慣を身につけさせる。 ・学習、課外活動に積極的に取り組み、成果を上げさせる。 	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に考えさせながら自分の力で行動することを学ばせ、習慣化できた面もあるが、全体的には不十分な面が見られる。 ・接触的に取り組んでいる生徒は、成果も上がっているのに、さらに伸ばしていきたい。
		社会通念に即した基本的な生活習慣確立のための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆることで「けじめ」「メリハリ」を大事にできるようにする。 ・その場そのときのTPOをわきまえた判断・行動・容姿を身につけさせる。(生きる力) 	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOをわきまえては行動等できてはいるが、「けじめ」ができていない場面が多かった。 ・一部目立つ生徒もいるので継続した指導が必要である。
	それ 以外 の事 項	進路意識を常に持ち、今年度中に将来の方向性を決められるための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を利用して、進路を考えさせる。 ・インターンシップを活用して将来の自分を考えさせる。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップが実施できなかったため、進路への意識を持たせることが難しかった。 ・進路等の時間を多くとることにより、意識を将来に向けることができる生徒が増えたが、まだ不十分な生徒が見られる。 ・今後、さらに進路意識の充実を図る。
3 学年	重点 目標 関連	各自が描く進路目標、将来像への先導	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な進路指導(面接や小論文等の指導を、生徒が主体的に動けるような企画とガイダンスの徹底)を学年全体で行う。 ・進路の先にある将来像を持たせる指導を徹底し、出口誘導ではなく、社会や家庭を築く大人へと導くための指導を学年全体で探求する。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導等計画的に学年で実施できた。 ・学年では計画的に動いていたと思うが進路指導部との連携が必要であると感じた。
		社会通念に即した人間(社会人・成人)形成・自立のための指導	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の些細な場面においても、少しずつ社会人の立場に置き換えた指導へと移行させる。 ・基本的な生活習慣が確立されていない者や要支援の者への指導についても、民間企業等を基準として、改善を促したり適切なサポートを取り入れていく。 ・全員が自立して一人暮らしを行うという想定で、身の回りの各種生活指導も日常の取組や学年行事等でも行う。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者のサポートがしっかりとできたとと思う。
	それ 以外 の事 項	学校や学科、地域に誇りを持てるような(郷土愛や帰属感を育む)機会の提供・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時における指導において、高校生活を振り返り、多くの人々に支えられて生活ができている感謝の気持ちが持てるような行事、指導等を計画、実施をする。 ・進路決定後も一貫して、進路先のため後輩のためにも責任ある行動を取れるよう、継続的な各種の指導を行う。 	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定後少し気が緩んでしまった生徒はいるものの、大部分が気を抜かず生活できるよう指導ができている。 ・行事等いつもしっかりと取り組み、下級生の手本になっていたと思う。
植 物 科 学 科	重点 目標 関連	学校パンフレットに示されている「地域活性化」「グローバル」「育てるって楽しい!!」などに沿った教育活動を展開する。	講義中心の授業にならないよう工夫し、「育てる経験」や「地域連携」を実践で学べるよう魅力ある授業の展開をする。	3.0	未来創造推進事業やキャリア支援事業をはじめとした各支援事業を活用し、地域連携活動を実施し、生徒の学習理解につなげることができた。
		3年生を中心に、始業前や放課後に農作物の管理や観察を定期的に行うことによって、物事に継続して取り組む力を身につける。	土地利用生産コース(作物・果樹)と園芸植物コース(野菜・草花)の選択生は、各担当教員の指示のもと収穫作業や生育調査などを行う。	2.8	コースごとの活動はそれぞれできていたが、一部の生徒は継続的な活動ができなかった。全員が継続的な活動に取り組めるよう課外活動の実施方法を検討したい。
	それ 以外 の事 項	生徒の活動を校外へ発信し、本校のPR活動を盛んにする。	各部門(作物・果樹・野菜・草花)、毎月1回はホームページを更新し、校外へ情報を発信する。	2.1	定期的なホームページの更新ができなかったため、各部門で互いに指摘し合い定期的な情報発信を行う。
		実習中の生徒の事故防止を未然に防ぐ。「安心安全な農産物」を生産する管理体制を職員・生徒とともに整え生産者としての意識を高める。	毎時間、生徒の作業服の着こなし等を指導し、未然の事故防止や商品の異物混入などを防ぎ、管理体制の重要性や生産者としての意識の大切さを学習させる。	3.2	多くの生徒の作業服の着こなしは良くなっている。一部の生徒以外は作業服を着こなせていないため、指導を継続して行いたい。

動物科学科	重点目標関連	魅力ある授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実を図るため、教材や飼育環境の整備を行う。 ・農家や専門学校と連携した授業を実施する。 	3.0	今後、小動物教材の導入を検討していく。外部講師による授業や専門学校との連携授業を計画的に実施できた。
	重点目標関連	進路実現に向けた、校内体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・科内職員で協力し、進路実現を図る。(3年生) ・インターンシップを円滑に実施する。(2年生) ・進路意識を高める行事を開催する。(1年生) 	2.0	3年生の進路指導を分担して実施した。次年度は早くから計画し、成果を上げたい。また、2年生については、インターンシップ未実施となり、対応を検討する必要がある。1年生については、計画通りであった。
	それ以外の事項	資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で計画的に資格取得の指導をし、生徒たちへ成功体験を積ませる。 	2.0	「愛玩動物管理士2級」の合格者がでたのは成果として大きい。
	それ以外の事項	学科の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを積極的に更新し、新学科の情報を外部に発信する。 	3.0	積極的にHP更新に取り組んだ。今後も継続していきたい。
食品科学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底	<ol style="list-style-type: none"> (1)授業時間を守ることができるように指導を行う。 (2)実習時の正しい実習服の着用を指導するとともに、協力して作業をすることの大切さを実感させる。 	2.4	学年によって差はあるが、ある程度は徹底できた。
	重点目標関連	学習意欲を高め、専門的知識の定着を図るとともに、わかる授業を展開する	<ol style="list-style-type: none"> (1)座学と連携させた、基礎的な内容の実験や実習を実施する。 (2)生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践するために、教材研究を充実させる。 	3.0	実験や実習を取り入れることができた。
	それ以外の事項	進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	2.6	生産品を製造に力を入れているため、技術がともなっているか疑問である。
	それ以外の事項	コミュニケーション能力の醸成	グループワークや地域交流活動等に参加し、体験交流の機会や他の意見に触れる機会を設ける。	3.0	さくら保育園やグリーンツーリズムなどで地域交流ができた。
環境デザイン科	重点目標関連	学習意欲の向上と専門的知識・技術の定着	<ol style="list-style-type: none"> (1)専門学習への興味・関心・理解を高め、コース選択や進路選択時に学科の学びを深めたいくなるような授業並びに取り組みを計画・実践していく。 (2)実習服などの身だしなみや道具の取扱、安全管理など、自主的に判断し、行動に移せるように指導していく。 	2.6	専門学習への興味関心を高める展開をできたが、理解を高める部分では改善の余地がある。また、実習の安全管理や自ら行動に移せるように指導を徹底していく必要がある。
	重点目標関連	環境デザイン科ならではの「環境人」の育成	<ol style="list-style-type: none"> (1)SDGsや地域連携など学科の取り組みを理解し、主体的に行動できるように働きかけをしていく。 (2)学科独自の環境活動や地域貢献活動を計画し、スモールステップ(三年計画)で成果をあげる。 	2.6	地域での活動は一定の成果を上げることができた。しかし、主体的に行動できるようすることや3年間の計画については今後の課題として検討する必要がある。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	<ol style="list-style-type: none"> (1)地域連携活動や資格取得など、生徒が自主的に取り組めるような仕組み・仕掛けを構築する。 (2)学科の学習内容を活かし、各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に取り組む。 	3.2	意欲的に資格取得を自ら目指す生徒が多くなった。課外などを通して合格率を上げる工夫をしたい。コンクールでは日大土木設計競技で入賞や農業クラブ全国大会鑑定競技会で優秀賞など積極的に活動する生徒を指導することができ一定の成果を上げることができた。
	それ以外の事項	カリキュラムデザインや教材などの評価並びに再検討	<ol style="list-style-type: none"> (1)専門学習の進め方や関係機関との連携方法について、詳細な準備を進めたり、これまで実施した内容について振り返りを行う。 (2)教材や施設・設備の準備・計画などを進め、適宜再検討も行う。 	3.2	研修旅行や市役所の庭園製作、太平山の自然歩道整備を通して、今後の活動のあり方や授業の展開、施設設備の利用等について意見交換し、来年度以降の取り組みについて再検討することができた。